

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4093700013		
法人名	有限会社 福岡医療研究所		
事業所名	グループホーム やさしい時間		
所在地	〒811-1241 福岡県筑紫郡那珂川町後野4丁目10番5号 Tel. 092-952-6563		
自己評価作成日	平成29年09月13日	評価結果確定日	平成29年10月26日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「ゆっくり、ゆったり、穏やかに」を理念とし、なじみのある地域の中で、安心してくつろいだ生活をしていただけるよう支援している。  
 主治医や訪問看護と連携し、利用者様が安心して過ごせるよう努めている。また、ご本人、ご家族の希望があれば看取りも行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「やさしい時間」は、「ゆっくり、ゆったり、穏やかに」を基本理念として掲げ、認知症高齢者が、馴染みのある地域の中で安心して暮らせるよう、12年前に開設された2ユニット(定員18名)の事業所である。職員は、笑顔と思いやりを持って誠実に利用者へ寄り添い、その優しい声かけに利用者の表情も和み、ゆったりとしたやさしい時間が流れている。訪れやすい雰囲気のため、家族の面会も多く、食事会では、利用者と家族、職員と一緒に食事を摂りながら親睦を図り、信頼関係を築いている。協力医療機関の医師による月2回の往診と、週1回の訪問看護、往診クリニックの看護師と介護職員の連携により、24時間安心の医療体制が整い、利用者が重度化しても、安心して看取りの支援が行える環境である。定着してきた職員のチーム力を発揮し、全員で利用者を見る介護サービスに取り組み、家族の大きな安心と信頼が寄せられている、「グループホーム やさしい時間」である。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel. 093-582-0294	
訪問調査日	平成29年10月10日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、ゆったり、穏やかに」の理念に基づき、利用者様の気持ちに寄り添った支援を心掛けている。	ホームが目指す介護サービスの在り方を明示した理念を掲示し、職員会議や申し送り時等で、理念に絡めた話をして意識づけを行っている。「ゆったり・ゆっくり・穏やかに」と謳い、職員は、笑顔と優しさ、思いやりを持って利用者へ寄り添っている。	職員一人ひとりが、理念に沿った個人の目標を立て、定期的に振り返る機会を設けることで、理念を日々の介護サービスに結び付けていくことを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや運動会に、利用者様、職員が参加し、交流している。	運営推進会議の委員である副区長から地域の情報を得て、地域の祭りに参加して綿菓子やかき氷を食べたり、盆踊りを楽しんでいる。地域のスーパーで買い物したり、近くの公園を散歩して挨拶を交わす等、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方の参加があり、事例紹介や意見交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、ホームでの取り組みなどを報告している。地域の方や御家族の意見を反映出来るよう心がけている。他施設の管理者の出席もあり、助言等も頂いている。	会議は2ヶ月毎に開催し、ホームの入居状況や活動内容、取り組みについて報告を行い、参加委員からは、質問や要望、地域の情報提供を受け、それらの意見を検討し、ホーム運営に反映させている。近隣の他事業所の管理者の参加もあり、アドバイスを受けている。	参加委員が固定化しているため、順番に家族に参加してもらったり、薬剤師、訪問歯科の医師や歯科衛生士等呼びかけ、それぞれの立場から話をしてもらったり、利用者としてレクや体操をする等、内容の工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村、地域包括支援センターの方に運営推進会議に出席していただいている。相談事や事故報告などを迅速に行い、協力関係を築いている。	管理者は、介護における疑問点や困難事例、事故等を行政に相談し、アドバイスを貰い連携を図っている。運営推進会議に行政や地域包括支援センター職員が出席し、ホームの実情を伝え、助言や情報提供を受け、行政との協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はせず、利用者様の希望、意思を尊重し、見守りや声掛けを行い安全に過ごせるようにしている。	外部の身体拘束に関する研修に参加した職員が、内部研修で報告し、具体的な拘束の事例を挙げて検証する等、身体拘束をしない介護サービスに取り組んでいる。向精神薬の服薬についても、出来るだけ減らしていきたいと考え、個人の状態に応じて検討している。また、日中は玄関を開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の方の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、精神的虐待、言葉での虐待がないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を配布し、スタッフ会議内で勉強会を行い、学ぶ機会を持っている。	権利擁護の制度を活用している利用者が3名いるため、後見人とのやり取りを通じて、制度の理解に努めている。制度について勉強会を行ない、職員間の周知を図り、必要時には、いつでも支援出来る体制を整え、利用者の権利や財産が不利益を被らないよう、関係機関と協力しながら取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、御家族に不安や要望などを伺い、対応するよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された際などに、日々の様子の報告と共に、意見や要望などを伺い、反映できるよう心掛けている。	利用者の意見や要望は、日常会話の中から聴き取り、出来るだけ反映させている。家族については、面会や行事参加の時に、職員が家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望、気になる事等を聴きだし、職員間で共有し、ホームの運営や介護計画に反映出来るように取り組んでいる。遠方の家族には、電話をかけて要望を聴いている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議で、入居者様の状況の報告や意見交換を行い、職員からの意見を聞く機会を設けている。	月1回、18時半から職員会議を開催し、意見が出しやすい雰囲気の中、活発な意見交換が行われている。出された意見は、出来る事からホーム運営や業務改善に反映させている。また、事前に議題を伝え、欠席者には意見を尋ね、会議に反映させている。日々の申し送りや業務の中でも話し合う場面があり、その都度課題の解決に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各委員会を設け、一人の職員に負担がかからぬよう仕事を分担し、職員同士が協力できるような体制をとっている。また外部研修への参加などでスキルアップできるようにし、やりがいを持てるよう努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては性別や年齢ではなく、人柄を重視している。また、職員が個々の能力を生かせるよう、個性を尊重し意見交換しながら勤務している。	管理者は、職員の特技や能力を把握し、適材適所に人員配置し、職員が働きやすい環境作りに取り組んでいる。職員それぞれの事情を汲んだ勤務の仕方や希望休の調整を行い、生き生きと働ける就労環境である。また、職員の介護力や知識を高めるための研修への参加を奨励し、資格取得のための支援と合わせ、職員が意欲的に働けるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修を受講するなど、職員の人権教育に努めている。また、利用者様が自分らしく穏やかに過ごせるよう支援している。	利用者の人権を守る介護の在り方を、職員会議や勉強会の中で話し合い、職員一人ひとりが、「ゆっくり・ゆったり・穏やかに」の実践に努め、利用者が安心して、穏やかに暮らせるグループホームを目指している。声の大きさや言葉遣い等、気になった時には、その都度注意をして改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職員に合った研修に参加し、学んだことをスタッフ会議内で報告し、職員のスキルアップを目指している。また、迷った時や疑問を持った時に、相談や質問がしやすい職場であるよう努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や地域の介護事業所との研修会への参加などで交流する機会を作っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中で会話や行動を通し、本人の希望や不安をくみ取り職員間で共有し、安心して過ごして頂けるよう努めている。また笑顔でコミュニケーションをとるよう心掛けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時には積極的に声をかけ、利用者様の様子をお伝えすると共に、希望や不安をお尋ねするように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との会話の中で、要望を確認し、必要とされる支援が行えるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや茶碗拭きなど、以前行っていたと思われる家事作業を職員と共に行う中で、コミュニケーションを取りよりよい関係を築けるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに日頃の様子をお伝えしたり、年に数回の食事会などで一緒に過ごす時間を作り、ご家族とよりよい関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族以外の親戚や友人の面会もあり、その際は、以前のご様子や好きなこと、趣味などを伺うようにしている。	利用者の重度化に伴い、友人、知人の面会は徐々に減ってはきているが、面会時には、お茶等でもてなし、訪れやすい雰囲気作りを心掛けている。家族と一緒に外出し、普段行けない場所を訪ねたり、自宅に帰ったり、外食したりして、利用者が長年築いてきた馴染みの関係が、ホーム入居で途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーションなどを通し、利用者様同士が関わられるよう心掛けている。また利用者様同士が会話できるよう、時には職員が仲介し孤立しないよう勤めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所になった時には病院へ面会に伺ったり、亡くなられた時には最期のお別れに伺ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や何気ない行動や表情から出来る限り本人の希望、意向を把握し、支援できるよう取り組んでいる。	職員は、利用者と共に暮らす中で、その行動や言葉、表情から、思いや意向を把握し、職員間で情報を共有し、日々の介護サービスに取り組んでいる。意向表出が難しい利用者には、家族に相談したり、過去のアセスメントを振り返り、職員が明るい笑顔で、利用者寄り添い話しかけ、意向を汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族に話を伺ったり、入居前に利用していたサービスや病院からの情報から、フェイスシートやケアプランを作成し、情報の共有、把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	新聞折り、洗濯物たたみなどの家事作業や、レクリエーションなどを通じて、その方の体調や心身状態を把握するよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム内の様子、状態を職員同士で話し合い、意見交換を行い、現状に即した介護計画を作成している。	家族面会時にコミュニケーションを図り、意見や要望、心配な事等を聴き取り、カンファレンスやモニタリングを実施し、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の重度化や、状態変化に合わせ、家族や主治医と話し合い、介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、介助、対応方法の見直しを行い、サービス提供のチェック表を活用し職員間で情報を共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族、職員から支援に関して意見が出た場合など、職員間で話し合いながら、その意見が取り入れられるよう取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加できるよう支援している。地域の方からも行事の際に声を掛けていただける。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ご本人の病状や体調を把握し、ご家族の希望を伺いながら、病院受診や往診をうけられるよう支援している。	利用者や家族と入居時に話し合い、かかりつけ医と協力医療機関を選択してもらい、かかりつけ医の受診は家族対応でお願いし、利用者の医療情報を家族と共有している。月2回の往診体制の協力医療機関の医師と訪問看護、介護職員が連携し、早期発見、早期治療に取り組み、安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のケアの中で、利用者様の状態の変化や異常を見逃さないようにし、訪問看護師や往診クリニックの看護師に報告を行っている。24時間連絡できる体制が整っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、面会に伺ったり、ご家族に現状を聞くなどしている。入院時にホーム内での様子をしっかりと伝え、病院関係者との情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、出来るだけ早い段階でご家族や医師と話し合いを行い、ホームですることを説明している。	ターミナルケアについて、利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と密に連絡を取りながら、主治医や訪問看護師、介護職員を交えて今後の介護方針を話し合い、本人、家族の希望があった場合、ホームで出来る範囲内での看取りの支援を行っている。「ここに入居して良かった」と思ってもらえるよう、心をこめて看取りに取り組み、この1年で4名の方を見送っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や自己発生時のマニュアルを把握し、それに基づき対応している。必要時には医療と連携している。また、職員全員が身に付けていけるよう、これまで以上に救命講習に取り組んでいく。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日勤帯、夜勤帯を想定した避難訓練を実施している。	年2回、避難訓練を行っている。6月に日勤帯想定で実施し、11月には夜間想定で行う予定である。通報装置や消火器の使い方、出火場所による避難経路や避難場所の確認を行い、利用者全員が、安全に避難出来るよう訓練に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時や入浴時など、羞恥心に配慮したケアを行っている。また言葉遣いに注意し、穏やかな口調で対応するよう心掛けている。	利用者のプライバシーを守る介護のあり方を、職員会議や申し送り時に話し合い、利用者の個性やこれまでの生活習慣に配慮し、言葉遣いや対応に注意している。特に、排泄や入浴の場面では、羞恥心に配慮し、希望があれば同性介助を行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを行い、コミュニケーションを積極的に行うことで、利用者様の希望を聞きだせるよう働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調などに合わせ、可能な限り一人ひとりのペースで過ごせるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時などに鏡の前で髪を整えたり、衣類を職員と一緒に選んだり、季節に合った洋服を着て頂けるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人に合った食事形態で提供したり、好きなものを提供したりしている。また、食後には食器拭きを手伝っていただいている。	栄養バランスのとれた配食サービスを利用し、盛り付けをして提供している。御飯を茶碗によそったり、食後の食器ふきやテーブル拭きは利用者に手伝ってもらっている。誕生会のケーキを手作りしたり、利用者の好きな稲荷ずしを作ったり、食べる事を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録のチェック欄に記入し、不足している場合は好みのものを提供するなどし、1日の摂取量を確保できるよう努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表を作り、出来る限り毎食後にケアを行っている。また必要な方には、口腔ケアスポンジや歯間ブラシを使用し清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録にて排泄リズムの把握を心掛け、出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。オムツよりリハビリパンツ、リハビリパンツより布パンツを使用できるよう、こまめな声掛けを行っている。	利用者が重度化してもトイレでの排泄支援を基本とし、職員は、利用者の排泄パターンを把握して、タイミング良く声掛けや誘導を行い、失敗の少ないトイレでの排泄の支援を行っている。また、夜間も出来るだけトイレ誘導を行い、利用者の自信回復と、オムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録を細かく行い、運動や水分補給などでも排便がない場合は、主治医に相談している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否がみられるときには無理せず、時間帯や職員を変更するなどし、スムーズに気持ちよく入浴していただけるよう対応している。また、入浴中の会話を大切に、楽しめるよう支援している。	入浴は、利用者の希望や心身の状態を見ながら、最低でも週2回行っている。浴槽に浸かることのできる方は半数ほどであるが、職員は利用者と一緒に話をしながら、楽しい入浴の支援に取り組んでいる。入浴を拒む方については、時間をずらしたり、職員が交代して声掛けし、無理強いせずに利用者の気持ちを優先し、清拭や足浴に変更して、清潔保持に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう、日中は体操やレクリエーションなどを取り入れ、安眠できるよう支援している。またその日の体調により、いつでも居室で休んでいただけるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の二重三重のチェックを行い、誤薬や飲み忘れがないよう努めている。また、新しく薬が処方された場合は、どのような薬かを職員に周知するよう努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗拭きや洗濯物たたみ、裁縫など、その方が出来る事を手伝っていただいたり、天気の良い日に散歩や外出をして気分転換ができるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の祭りに参加したり、天気の良い日にホーム周辺を散歩したり、近くの公園へ出かけたりする機会がある。御家族と買い物などに出掛けることもある。	天気の良い日を利用して、ホーム周辺の散歩や買い物、花見やドライブに出掛け、利用者の気分転換を図っている。また、買い物の帰りに公園に寄っておやつを食べることは利用者の楽しみである。家族の協力を得て、自宅に帰宅したり、外食や買い物に出かけ、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人用にお預かりしているお金より、必要なものを必要な時に購入できるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはないが、電話がかかってきた際は取り次ぎ、ご本人の希望があれば電話を掛けるようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温には配慮しているが、冷房で冷えた時などはひざ掛けやブランケットをいつでも使えるようにしている。また、季節に応じた飾りつけも行っている。	玄関ホールや廊下には、利用者と職員が制作した季節毎の作品を飾り、行事等の楽しそうな利用者の笑顔の写真を掲示し、明るく、アットホームな雰囲気の共用空間である。利用者が居心地良く過ごせるように、テーブルやソファの配置を考えている。換気を徹底し、気持ちよく暮らせるように清掃専門の職員を配置して、清潔な環境作りに取り組んでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で過ごせるよう、テーブルやソファの配置を考え、食事や体操、レクリエーションなどを楽しめるよう工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に御家族の写真や、外出時の写真などを飾ったり、趣味で使用していたものや馴染みのものをおくようにしている。また季節を感じられる飾り付けも行っている。	利用者の馴染みの家具や使い慣れた寝具、身の回りの物、家族の写真やぬいぐるみ、人形等を家族と相談しながら持ち込んでもらい、その人らしい居室となるよう支援している。重度の方が多くなってきたため、動線にも配慮し、車椅子利用者が移動しやすい家具の配置にする等、担当職員が中心に支援に取り組んでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできることを把握し、できることをできる範囲でして頂くようにしている。居室は、各利用者様に合わせ動線を確保し、安全に動けるようにしている。		